

司馬遼太郎の「知」感じる書架

壁一面に2万冊 大阪の記念館



本を読み、想像力養う大切さ説く



司馬遼太郎記念館の大書架。いずれも大阪府東大阪市



大阪府東大阪市の自宅で原稿を書く司馬遼太郎さん（1978年、司馬遼太郎記念館提供）

「坂の上の雲」や「竜馬がゆく」など多くの歴史小説を残した作家の故司馬遼太郎さん。生前に「人間を成長させるのは本」と語っており、本を読んで想像し考えることの大切さを説いていた。こうした司馬さんの精神を次の世代に伝えようとしているのが、大阪府東大阪にある司馬遼

太郎記念館だ。館内に入り地下へ進むと、高さ11メートルの吹き抜け空間があり、天井まで届くほどの大きな書架が壁一面に沿って設置されている。そこには、司馬さんが所蔵していた約6万冊のうち2万冊が収められている。圧倒されながら見渡す来館者は多い。

「読んでもらうための展示ではないが、たくさん本を眺めて何かを感じ、自由に考えてくれればいい。ここは感じる記念館です」と、館長で司馬さんの義弟でもある上村洋行さん(76)は語る。「考えることは落ち着きにつながり、そこから文化が始まると思っから」

■ 午前10時～午後5時（入館受付は同4時半）。休館は、月曜（祝日の場合は開館）翌日、9月1～10日、12月28日～1月4日。500円ほか。司馬遼太郎記念館 ☎06・6726・33860

① 記事に出てくる司馬遼太郎さんの作品を書きましょう。

坂					竜馬				
二	十	一	世	紀					
燃									

② 記念館のつくりを確認しましょう。

館内には高さ① メートルの吹き抜けがあり、天井に届くほどの書架には司馬さんが所蔵していた約② 万冊のうち2万冊が収められている。

③ 記事に出てきた次の言葉から、考えたことを書きましょう。

「人間を成長させるのは本」
「…ここは感じる記念館です」
「考えることは落ち着きにつながり、そこから文化が始まる」
「本を読んで、会話して、他者を理解する想像力を養う訓練が大切」

記念館は、司馬さんが亡くなってから5年後の2001年に開館した。晩年を通じた自宅に隣接させ、建築家の安藤忠雄さんが設計を手掛けて建てられた。敷地内には、司馬さんが好んだ雑木林のような庭が整えられている。その一角に、自宅の書斎が当時のまま残されている。来館者は外から窓越しに見学し、たくさん本に囲まれながら執筆活動が行われていた日々をしのぶことができる。